

2021 年度森泰吉郎記念研究振興基金研究成果報告書

研究課題名：地震津波防災教材「防災小説」のパンデミックへの応用
政策・メディア研究科 修士 2 年 川崎彩奈

研究の背景

「不確実な地震発生に関する情報をいかに伝えるか、それによっていかに対処行動をとってもらうか」というテーマは、防災研究の命題とも言える。

このテーマに対して、例えば地震調査研究推進本部(事務局;文部科学省)は、今後 30 年で震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率を「確率論的地震動予測地図」として毎年公表するという方法をとっている。ところが、リスク認知と対処行動意図に関する社会調査では、この地図の効果は極めて限定的であることがわかった(永松, 2018)。

また、東日本大震災を経て見直された「南海トラフ巨大地震」の新想定(内閣府, 2012/2013)においても、「災害リスクへの注意喚起と防災意識の向上」という本来の目的とは逆行した「諦め・慢心・依存のムード(3つのムード)」を人々にもたらすなど(孫, 2014:76-87, 大木, 2017)、既存のリスク・コミュニケーションの限界が課題となっている。

矢守・杉山(2015)は、被害想定を携えて未来の被災地となる地域へ啓発に現れる防災研究者を、「何十年にもわたって、その土地の恵みを享受し人間関係を育み生きてきた人びとの前に、『この町には 30 年以内に巨大津波がやってくるよ!』と叫びながら突如現れた」と表現し、専門家による防災行動の促進がインストゥルメンタル(目的志向的)に偏り、コンサマトリー(現時充足的)な要素を見逃しがちであることの弊害を警鐘している。

上述の「3つのムード」が引き起こされた地域の一つに、高知県土佐清水市がある。同市は内閣府の新想定で、「想定津波高が全国最大 34m」と発表された地域であった。「市民から不安や諦めの声が出ている」——市の危機管理課からこのような相談を受けた大木聖子准教授は、2013 年より市内の小中学校で防災教育の共同実践を開始した。2016 年には市内唯一の中学校(清水中学校)での取り組みも始まり、同年に誕生したのが「防災小説」であった。数年間の防災教育によって生まれたこの取り組みが、上記のようなリスク・コミュニケーションの限界を打破しつつある。

「防災小説」は、臨床心理学や看護学などで活用されている「ナラティブ・アプローチ(野口, 2005 等)」の防災分野への応用と位置づけることができる(大木・他, 2017)。内閣府発表の新想定はナラティブ研究における「ドミナント・ストーリー」に相当し、事態の硬直化を招いている。このような硬直化した事態を打破する「オルタナティブ・ストーリー」として、「防災小説」が寄与しているということが明らかとなった(永松, 2018)。そして「防災小説」の作成は、地震動予測地図のような既存の防災啓発ツールに見られる限界を補えるリスク・コミュニケーションとして位置づけることができる(所, 2019)。

本論では、「防災小説」の適用条件は何かを探るべく、これまでの「防災教育教材としての『防災小説』」から視野を広げ、「感染症『防災小説』づくり」「コロナ禍のコミュニケーション」「教員ナラティブ」という3つの視点から、「防災小説」を再考する。

「防災小説」とは

「防災小説」とは、自身が災害に遭遇することを「自分ごと」として考えることを目指した防災教育教材である。「まだ」起きていない未来の地震を「もう」起きたものとして描くことが特徴であり、物語は「希望を持って終える」ことが条件である。

また、「防災小説」を構成する重要な要素として、人の情報処理・判断により適しているとされる「ナラティブモード」と、矢守（2018）の「〈Days-After〉の語り」が挙げられる。本研究ではこの2つの要素を用いて、「防災小説」の適用条件を明らかにしていく。

再考1：「感染症版『防災小説』」の作成

まず初めに、これまで地震・津波防災教材として用いられている「防災小説」を感染症版で適用できるかどうかを測るため、数種類の「防災小説（感染症版）」を作成した。特に現役看護師との共同作品では、複数の視点から詳細に状況と心情を描くことを目指した。書き手と読み手それぞれの感想を調査・分析したところ、行動変容が必要な事象に対して強力なツールの一つである「防災小説」は、その事象が既に蔓延している段階では活用が難しいということが明らかとなった。

再考2：コロナ禍のコミュニケーションにおける「未来の語り」

続いて、蔓延前の段階で「防災小説」的語りが見られたかどうかを検証すべく、コロナ禍のコミュニケーションにおける「未来の語り」という観点から各国のリーダーたちのスピーチ内容を整理した。「防災小説」の語り（表1における②）にあたるものは該当せず、一方で「ナラティブモード」による語りは多く見られた。

	「Days-After」の語り： 破局の「前」に破局の「後」について語る（想定・予測・予言）	〈Days-After〉の語り： 「まだ」を「もう」として語る（徹底した未来の既定化）
ナラティブモード	① ナラティブモードかつ「Days-After」 <ul style="list-style-type: none"> メルケル首相「祖父母との最後のクリスマス」 アードアン首相「今は少し、うさぎさんたちも難しい状況だと思って」 ポリス首相「（個人名）に感謝……みんな一緒に頑張って（コロナを）倒します」 	② ナラティブモードかつ〈Days-After〉 <ul style="list-style-type: none"> 該当なし （『首都感染（高嶋，2013）』）
論理実証モード	③ 論理実証モードかつ「Days-After」 <ul style="list-style-type: none"> 安倍首相「感染拡大が続けば2週間後には1万人、1ヶ月後には8万人」 	④ 論理実証モードかつ〈Days-After〉 <ul style="list-style-type: none"> 該当なし

表1：コロナ禍における「未来の語り」分類

再考3：地震・津波防災における「語り」分類

さらに、「語り」の分類を地震・津波防災に置き換えて再考察し、教員研修教材「教員ナラティブ」と「防災小説」の違いに着目した。「教員ナラティブ」とは、大木研究室で2018年に考案された「防災シナリオ」であり、「発災時の様子を、教員自らの目線で物語形式で綴ったシナリオ」として現在も教員研修で活用されている（バリーク，2018）。

この2つの教材は、表1における①と②に属する。しかし、より詳細な比較を行うことで、次のような相違点があることが明らかとなった（表2）。「ナラティブ」を用いている点では共通しているものの、活用目的が異なりアウトプットの形にも違いがあること、そして矢守（2009）の「リアリティの共同構築」という視点がそれぞれに違った形で反映されていることが示された。

	「Days-After」の語り： 破局の「前」に破局の「後」につ いて語る（想定・予測・予言）	〈Days-After〉の語り： 「まだ」を「もう」として語る （徹底した未来の既定化）
	「教員ナラティブ」	「防災小説」
誰が・何のために書くか	専門家が・被害想定をわかりやすく伝えるために	自分が・自分のこととして考えるために
執筆者の在り方	教員になりきって	（徹底的な）自己目線
物語の終わり方	未完：研修を経て 教員たちが未来を決めていく	希望を持った終わり：生徒一人一人が 自分たちで描く
共通点	みんな（教員全体）で決める	<u>みんな（クラスメイト）と共有する</u>

表1：「教員ナラティブ」と「防災小説」の比較

そして、矢守（2018）の〈Days-After〉の語りの条件には、「徹底した未来の既定化」に加え、「『徹底した自己目線』で未来を描き、その一連を同じコミュニティ内で共有すること」も含まれていることが示唆された。

以上のことから、「防災小説」を「防災小説」たらしめるのは、「①徹底した自己目線で ②希望のある『未来』を描き、一連を③コミュニティ内で共有する（＝リアリティの共同構築）」であることが明らかとなった。

まとめ

3つの考察を経て、「防災小説」の適用条件に加え、防災分野における2つの前提も明らかとなった。〈Days-After〉の語り機能が機能するためには、その前提としての「Days-After」が明示され「ドミナント・ストーリー」として認知されていること、そしてそれを練り上げる役割を専門家らが担うことの重要性も示唆された。

謝辞

この度は、2021年度森泰吉郎記念研究振興基金にご採択いただき、誠にありがとうございました。多大なるご支援を賜り、本研究を無事に遂行することができました。今回得られた研究成果がこれからの防災に少しでも役立つものとなるよう、今後も精進してまいります。本当にありがとうございました。

参考文献

- 内閣府(2012,2013), 南海トラフ巨大地震の震度分布, 津波高等及び被害想定について(参照年月日:2022.1.4)
http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/nankaitrough_info.html.
- やまだようこ (2000) .人生を物語る－生成のライフストーリー－.ミネルヴァ書房.
- 矢守克也.(2009).再論－正常化の偏見.実験社会心理学研究,48(2),137-149.
- 矢守克也・杉山高志(2015),「Days-Before」の語に関する理論的考察, 質的心理学研究, 14, 110-127
- 矢守克也 (2018) .アクションリサーチ・イン・アクション 共同当事者・時間・データ.新曜社.
- 孫英英・近藤誠司・宮本匠・矢守克也(2014), 災害情報, 12, 76-87.
- 野口裕二(2005),『ナラティブの臨床社会学』, 勁草書房.
- 大木聖子(2017), 土佐清水市の中学生による防災小説-防災教育のナラティブ・アプローチ-, 日本安全教育学会 第18回岡山大会.
- 永松冬青.(2018).地震科学の限界を超えるためのコミュニケーション－防災ナラティブの可能性と人を育む防災教育－.慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 2017年度修士論文.
- バリーク亜美.(2018).ナラティブを活用したより良い防災研修のあり方.慶應義塾大学環境情報学部 2017年度卒業論文.
- 所里紗子.(2019).中学生による「防災小説」が他者に与える影響－高知県土佐清水市での3年間にわたる取り組みの考察－.慶應義塾大学総合政策学部 2018年度卒業論文..
- Weible,C.M.,Nohrstedt,D.,Cairney,P.,Carter,D.P.,Crow,D.A.,Durnová,A.P.,...&Stone,D.(2020).COVID-19and the policy sciences: initial reactions and perspectives. Policy sciences, 53(2),225-241.
- Lasswell,H.D.(1956).The decision process: Seven categories of functional analysis. Maryland: Bureau of Governmental Research, College of Business and Public Administration, University of Maryland.
- RNZ (投稿: 2020/4/6) .Jacinda Ardern - Tooth Fairy and Easter Bunny essential workers.<https://youtu.be/PpjuDHWCIQA>
- ドイツ連邦共和国大使館・総領事館ホームページ.(投稿: 2020/3/18) .新型コロナウイルス感染症対策に関するメルケル首相のテレビ演説 (2020年3月18日) . <https://japan.diplo.de/ja-ja/themen/politik/-/2331262>
- BBC NEWS JAPAN . (投稿: 2020/4/13) .ジョンソン英首相が退院、「助からない可能性あった」 医療者に感謝. <https://www.bbc.com/japanese/52266017>
- 首相官邸令和2年2月29日 令和2年4月7日 新型コロナウイルス感染症に関する安倍内閣総理大臣記者会見. https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/statement/2020/0407kaiken.html